

「日本の宴」に琵琶演奏  
 十二月十三日(日)昼夜京都都会館第一ホール、主催日本民主同志会 (次号詳報)  
 京都本妙寺義士祭琵琶演奏  
 十二月十四日(月)午後、京都琵琶協会有志献奏。(次号詳報)

ラヂオ琵琶放送  
 ○十一月十四日(夕)六時NHK・FM(芸術祭参加)。琵琶、バイオリン、チェロによる「挽と擦」に鶴田錦史氏が琵琶担当放送。  
 ○十一月二十六日(月)午後三時十分NHK・FM「敦盛」都錦穂女史放送。

計報

辻靖剛(三寿吉)氏 日本琵琶協会の副会長、薩摩琵琶正絃会理事長(作家辻邦生氏の父)。十一月二十五日動脈りゆう破裂のため東京国分寺病院にて逝去、享年八十九歳。中央新聞記者の後昭和八年自動車交通新聞社を創立して五十三年まで社長、戦中は日刊工業新聞社総務局長、日本新聞協会修練部長などを歴任。薩摩琵琶の伝統保持に努め勲四等瑞宝章を受賞。秘曲「妙寿風」の弾法を自ら継承して現代に伝えた琵琶界の功労者で斯界のため惜しい人を亡くした。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈る。

予告

○京都琵琶協会一月例会 一月九日(日)午後二時阪急電車嵐山線松尾神社駅前の料亭鳥米、夕刻から新年宴会。初会合につき会員諸氏万障繰合せ出席されし。  
 ○柴田旭堂琵琶演奏会 一月十七日(日)午後二時一四時神戸市文化ホール(中央区楠町四丁目)。(有料)  
 高千穂旭楓、大鏡旭晶、富樫旭桂(友情出演)をはじめ旭堂の「下田雨情(立方付)」、旭堂・旭艶の「大物の浦」、上原まり・洋楽ミウジシャン合奏「平家の幻想」など。  
 ○新春名流演奏会 一月二十三日(日)正午東京銀座ガスホール、出演二十四曲。主催日本琵琶協会の。(有料)

きかとあ

新年を迎えて又一つ馬齢を重ねたが健康なればこそその神様のお恵みと有難く思う。いつまでも若くありたいのは万人等しく希う処であるが、人生は二十五歳を頂点としてそれからは一年ごとに衰えてゆくのだそう、寿命がなければこればかりはどうにもならぬ。まあ精々健康に気をつけて毎日を楽しく送りたいものである。琵琶に志して六十年、不勉強と愚鈍の質のため一向に技量上達せず、徒らに蛮声を張りあげるばかりで肝心のツボを押さえることが出来ず、間(ま)のびした演奏の明け暮

れで慚愧にたえぬ。初心忘るべからずの諺を尊重して今年も精神的に若返り大いに頑張ってみよう。殊勝な心境に到達した。他の邦楽と違い琵琶という何か近寄りにくい観点が一般人にはあるようである。ことほど左様に琵琶は、良く云えば高尚、悪く云えば非現代的の邦楽と云えるのではあるまいか。それにしても「年頭所感」に述べた通り琵琶の沈滞は誠に徳性次第。琵琶の歌詞は文語体や掛け言葉等々で若い人には判り惜しい、歌謡曲などのように口語体の歌詞を作って普及されるのも方法であろう。またハッキリと発声するのも大切で何を云っているのか判らぬでは折角の名詞も死んでしまう。何と云っても明治大正生まれの多い今の琵琶人が年とともに減ってゆくのは理の当然で次代を担う男女青少年層の方々に琵琶を受け継いで貰わねばならぬように仕向けるのは、毎度申し上げる通り目下の急務である。緊要一番思いを新たに琵琶の再生に努力しようではないか。●本号には新年を祝う名刺交換の御協賛を沢山頂戴して厚くお礼を申し上げる。●原則としてお申し込みの順に掲載させて頂いたが万一不備の点があれば御容赦願いたい。●平素疎音の遠隔地同好のお名前を通じてその人の健康を祝しながらその容姿などを追想して懐かしい思いに浸るのは言葉では表現できない良い思い出である。●一人一人のお名前を心に刻んで充分にお楽しみ下さい。

昭和五十七年一月一日発行(非売品)  
 編集者 植村 眞水  
 発行所 吹田市山田東二丁目三十一番  
 〒569 電話 〇六(八七五) 〇三二六番

琵琶 機関紙

京

結

第三三一号 京絃社

年頭所感

主幹 植村 眞水



昭和五十七年の新春を迎え謹んで御慶を申し述べ、併せて今年が愛読者皆様の最良の年でありませう衷心よりお祈り申し上げます。琵琶を盛んにする為めに吾々はどうすればよいのか? 明治、大正時代が頂点で、爾後漸減の一途を辿る琵琶は、大東亜戦を契機として国民の思想一変のため益々衰微の方向に傾きつゝあると申しても過言ではないと考えられます。誠に歎かわしい限りで、何とか方策を建て、"夢よ、もう一度"と盛り返したい、このことは全琵琶人の等しく念願する処であろうと存じます。

そこで、差し当って如何にすれば良いか? たとえば、公開演奏会を頻繁に開催する、出演者の服装を簡略にする、一曲の演奏時間を短かくする、長い歌詞は中抜きをせず作詞者にも礼を失するので全曲を二、三人で続けて分奏する、安価な琵琶楽器を製作する、男女青少年の育成に力める等々、その他いろいろ

あろうと思いますが、早急には云い易く行ない難いことばかりで、実際問題としてその殆どが実行に踏み切るのがむづかしい、だからと云ってこのまゝ黙過しては、将来どころか現在が案じられる。というのが琵琶人全体の偽らざる心境だと考えられるのであります。筆者の若い時分には、蕎麦屋の小僧が出前の箱を下げて自転車走りながら琵琶歌を口ずさんでいたのを始め、当時は老いも若きも琵琶一遍で極めて盛んであったのですが、今は歌っているのか踊っているのか解らぬような歌謡曲や演歌の流行で、一般邦楽は一部を除いて何れも沈滞しています。併しながら古典芸能の最たる琵琶は、単に自分の趣味だけに志さねばならぬと思われるのであります。

年頭早々駄弁を弄して恐縮千万。どうぞ本年もよろしく御鞭撻御垂教をお願い申し上げます。

おんなの都 (五)

落合一誠



常盤御前(2)  
 武者、武人、侍、言葉を変えても、それは弓矢を取る人、つまり軍人である。

しかし、武士即ち軍人かというところ、そこには些さか微妙な差異がある。無論武士は軍事に携わっているけれど、古代王朝の軍兵や防人などとは少し違っている。どこが違っているかというところ、武士はもとと土豪であり貴族の侍者である。つまり、さぶらう者、侍であった。

ところが、この武士に源平の二氏があって、その始祖はどちらも皇族である。

平安京を始められた桓武天皇の曾孫に高望(たかもち)王という方があった。この人は、皇族であるけれど、藤原氏が政事をほしいままにしている志を得なかつたので、臣籍に降って平氏の姓を貰い関東へ下った。めつたに皇族を迎えたことのない関東の人民は、高望王を神のようにあがめ奉って、まず平氏の勢力が大いに伸長した。

ところが、平将門がそむき平忠常が反乱を起したため、源氏がこの討伐に当って、関



四絃漫筆

島津天嶺

鹿兒島行

東一円は源氏の勢力圏となつてしまつた。この源氏の始祖は、清和天皇の孫になる元孫王経基(つねもと)が臣籍に降つて源姓を賜わり、武蔵介(むさしのすけ)として関東へ赴いたのが、そもその始まりである。その頃政府は、新たに開墾した土地を私有地として認め、藤原氏や大寺社などが盛んに私有地を増していた。これがいわゆる荘園であつて、この荘園を都にいて管理する必要上、荘園に番人兼支配を置いた。これを荘司と云つて、何しろ強くなくて勤まらぬ役目ゆえ、土地の豪族が主として任命されることになつた。彼等は広い土地を駆け廻つて管理するため馬を乗りこなし、また盗賊や他の豪族の侵入を防ぐため武力をたくわえることになつた。つまり、貴族の番人乃至はガードマンのようなもので、これが次第に有力な武士団となり互いに同族を増していつて、源氏或いは平氏を仰ぐようになった。斯くして全国の武士団が、源平二氏をもつて色わけされるようになっていつた頃、武士たちはおのが雇い主であつた貴族に對立する巨大な勢力を貯わえるまでに至つた。それはもうすでに新興勢力と名づける一つの断層で、彼等は貴族社界を倒して自分たちの時代を、今まさに打ち立てんとしていた。この時、両雄並び立たずで、源平二氏の間主導権争いが起こつた。この始まりが保元の乱である。

この戦の根は深い所にあつたが、直接の原因は皇位継承問題で、藤原氏の同族争いによる。そこで相對する後白河天皇と崇徳上皇が互いに自派の貴族を集め、武士を募つて相争つたことにある。しかし、貴族同士の争いならば、激しくても血を見ることはなかつたけれども、殺傷を職能とする武士が加わると、戦の様相は忽ち惨だつたのは源氏一統であつた。天皇方に従つた源頼朝一人を除いて、父為朝はじめ義朝の兄弟総ては上皇方に組していつた。ところが、義朝の戦功によって天皇方が勝利を握つた時、天皇方に族していつた平清盛は、かねて仲の悪かつた叔父の忠正を真つ先に首切ることによつて、義朝が、その父や兄弟を我が手にかけてねばならぬように仕向けた。これは武骨一点張りの義朝をかけ引きに長じた清盛が、まんまとワナにかけたもので、為めに平氏は芳せず源氏勢力を削減することに成功した。けれども、この時の不満が三年後に平治の乱となつた。義朝は、たまたま清盛・重盛父子が能野詣に行つた留守をねらつて挙兵した。それは丁度、常盤が今若・乙若に続いて三人目の牛若を生んだ直後のことで、平素清水寺を信仰していつた常盤は、この時も清水寺で源氏の勝利をひたすら祈願していつたのである。

私が「琵琶道探求」の志を立てたのは昭和四十三年の夏、父が死んでからであるが、早速父が永年お世話になつた四明会に入会させて頂き、関西の正派の方々との御縁はできた。次ぎは薩摩琵琶の発祥地であり、県指定ではあるが無形文化財の称号を持つ鹿岡・池田・萩原の三先生を初め、多数の弾奏家がおられる鹿兒島の琵琶界と御縁をつなぎたいと思つて、池田天舟先生にお願ひして四十四年秋の同市文化祭参加、琵琶弾奏大会に初めて出演させて頂いたのが「キッカケ」で、その後一年おいて四十六年から毎年秋に鹿兒島を訪れている。もっとも当初は仕事の方も忙しかつたので夜行で夜行で帰るといつたトンボ帰りが多かつたが、このところ少し滞留して二、三の方の御宅を訪問したり、図書館等で調べ物をするゆとりができてきた、有難いことである。

今、四十四年の弾奏会(鹿兒島では今でも弾奏の字を使つていつる)のプログラムを見れば、

ば、地元の方が二十六名。この中には無形財の三先生を初め安田幸吉先生等名手の方がズラリ、又珍らしいことには現在東都で活躍されている木原綾子先生(當時は育水)の名もある。それに筑前が二名、薩摩では正絃会より吉成登城、城山会の横山岳玲、赤心会の森鶴堂の三先生も来演され、番数も三三番と、質量ともに豪華なものであつた。

それから十三年、名手、長老の方も或いは亡くなられ、或いは健康を害されて琵琶から遠ざかり、このプログラムに名を連ねられた在鹿の方で今もお健弾されているのは十名に過ぎない。勿論これを埋める新人も登場されていつるがその数も少なく、又正絃会のように二十・三十歳台の方が殆んどおられないのは残念なことである。

十年の歲月はこのように「人の流れ」を変えていつる。今後十年先のことを想像すると空恐しいような気もする。ここでも「後継者づくり」が大きな課題になつていつるのである。さて今回の旅行で二つの収穫があつた。ひとつは鹿兒島図書館で「薩摩琵琶独案内」といつる琵琶の本に出会つたこと、この本は明治三十四年初版(図書館の本は第三版)といふから、多分琵琶歌本プロバ一としては最古のものではないかと思われるからである。そしてこの本の著者寺尾影先生の序言に「前略」然れども薩摩琵琶は亦平家琵琶の変種なるべしと雖ども清楽琵琶・平家琵琶等と其の趣を異にし人を感動せしめ士氣を鼓舞するの

点に於ては前の二者の遠く及ぶ所にあらず、又其前二者と異なる点の、大なるは、弾に叶うといふ点にありとす(傍点は筆者)といふ言葉を見つけたのは望外の喜びであつた。

今ひとつは、地元の南日本新聞に連載されている民族音楽研究家久保けんお氏の薩摩音楽芸能史夜話の中の文章「薩摩琵琶はもともと戦国武士のたしなみとして誕生したのでから、その演奏法に武術武芸の心得が説かれて当然です。(中略)薩摩では手つとり早い体力増強には山坂達者を心掛けること、精神修養の第一義はツをすすめることだと説いてきました。ツとは胸の意です。薩摩琵琶でも強い音(胴体)にぶつつけるパチ音)を重視し「琵琶の絃は四筋だが実際には五筋ある。他の一筋とは何か」と聞かれたら「それはパチである」と答へなければならなかつた由です。そして「発声は臍下丹田からウナリ出せ」とか「歌の心をうたつて、そのフシを歌わない」とか「ひとり静かに浜辺で千鳥にうたいかけると心」とか「七人以上の多人教の席ではうたうな」などと説かれていつるのは精神修養の面を重視したものと見られます。云々と。

「弾絃一致」「武道的琵琶」・「精神的琵琶」これが薩摩琵琶の本性であろう。藩政時代でも時代が下るとこの土風琵琶に對しより芸能的な町風琵琶も発生した。又昭和の現代ではもっとも芸能的でなければならぬであろうが、私の探求するものはこの「原点的薩摩琵琶」である。来年もまた鹿兒島に遊び「琵琶の源流」を尋ねたいと思つていつる。(五六・一一・二八)

筑前琵琶

吉野山懷古

辻 旭城



あけましてお目出度うございます。植村先生をはじめ京絃御愛読の諸先生にはごきげんよろしく新年をお迎えになつてまつてお喜び申し上げます。旧年中は京絃誌を通じて何かとお世話になりました。本年も頑張りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

昭和二十五年四月、西條八十先生作詞、橘旭翁師作曲の「新曲吉野山懷古」が発表され、全国に流されて、当時琵琶界で人気を呼んだものである。筆者はこの琵琶歌にあこがれて、さきごろ吉野山探検をこころみた。

桜と史跡で名高い吉野山は、奈良県吉野郡吉野山町大峯山の北端にあたり、約八キロにわたる馬の背のような所にある。その昔、役行者が大峯山を開き、桜の木に蔵王権現の像を刻んでこれを祭つた。以来桜を神木として侍るものもなく、また信者の献木も多く、中でも大正七年(一五七九)に大阪平野の郷士末吉勤兵衛が桜一万本を寄進したりして、ついに金山桜をもつておられるようになった。今も毎年四月十一、二の両日を花供会式

といて、蔵王権現に桜花を供える儀式が行われている。

花は吉野山一帯を「下の千本」、如意輪寺附近を「中の千本」といい水神社あたりを「上の千本」という。いづれも吉野の桜の中心であるが、なお金峯神社から右へ入った西行庵一帯には「奥の千本」があり、四月中旬から下旬にかけてが一番見ごろである。

吉野山にはサクラのほか、見どころが沢山ある。「歌書よりも軍書に悲し吉野山」と歌われているように、兩朝の哀史の跡と、悲運の源義経の哀史、涙をそそる跡がそこかしこにこがっている。

「後醍醐帝の御陵に、小笠をとりて額けば……」とある吉野神宮は、明治天皇が後醍醐天皇の御霊を鎮めるために創建を発意された社で、社殿は大正十二年(一九二二)に建てはじめ、昭和七年に完成した。

吉野山「中の千本」に浄土宗日藏上人開基といわれる如意輪寺がある。正平二年(一三四七)十二月、楠正行が河内の国四條畷に出陣するとき、一族将士の名を過去帳に記帳し、この堂の扉に

掃らじとかねて思へば梓弓

なき数に入る名をぞとどむる

と辞世の歌を矢尻で記したという話は今に残されている。

「おことわり」後醍醐天皇の御陵について、後醍醐天皇塔尾陵は吉野神宮と述べたが、筆者の誤りで、如意輪寺の後山にあり、円

墳で北に向かっている。天皇は延元四年(一三三九)八月、吉野の行宮で崩御。謹んで訂正する。

吉野山に金峯山修験本宗金峯山寺がある。寺は吉野山の中心にあって、標高三六四メートルの小山で修験道の根本道場である。本堂蔵王堂は桁行五間、梁間六間、一重裳階のついた入母屋造、松皮葺で木造建築としては東大寺大仏殿につぐ大きなものである。

内部は内外兩陣に分かれ、内陣の柱は黒塗であるが、二本の来迎柱は金箔押し装飾が施されている。その蔵王堂前に、石欄に囲まれて四本桜が植えられていて、これは南朝時代大塔宮護良親王が、北條幕府と対決したとき敗北し、親王以下の主従たちが最後の酒宴を張った所といわれ、その南端で村上義光が親王の身替わりとなって自刃したという二天門跡がある。

### 五絃閑話

水藤 五朗



#### プログラム

母の遺稿集の編集にかかったのが今年の二月、当初は、二ヶ月もあればと思った仕事でしたが、予想に倍する日時を要しました。と云うのは、戦後数年の文章が、印刷が不鮮明

で、判読するのにかんりの努力を必要としたからであります。それらはガリ版刷りの会報で紙は汚れて変色して、そのまゝ原稿にする事は出来ません。そこで拡大ルーペを使ったりしながら、読みにくい字や、誤字・脱字を訂正判読して、新たに書き写してゆきました。これにかんりの時を要しました。更に、「かな用法」の問題もありました。

今は、私を含めて、多くの琵琶の人々が、「かな使用」にとまどっています。とにかく日常接している歌詞本が古文形式のかな用法なのです。生活の中でもそれがつい出てしまうのは無理からぬこと。ましてや、戦前教育の六十、七十代、それを上回る年代の琵琶人には「旧かな」の方が自然なのであります。よくこんな葉書や、手紙を貰います。

「前略、先日はお会い出来て嬉しく思いました。小生も若い頃にはこえが出ましたが、最近では歌へなくなりました。貴方の歌を聞いて、先づ思いましたが……。(後略)」

これを記された方は七十年代琵琶人のお一人ですが、新(現)、旧かな使用が混乱しています。勿論、何気なく記されたのでしようから、混乱していると云う意識はないのでしよう。敢えて、琵琶歌詞本の様子に記すところで

「前略、先日は、お会い出来て嬉しく思いました。小生も若い頃にはこえが出ましたが、最近では歌へなくなりました。貴方の歌を聞いて、先づ思いましたが……。(後略)」

次に、現代かなで記すところです。

(前略) 先日は、お会い出来て嬉しく思いました。小生も若い頃にはこえが出ましたが、最近では歌へなくなりました。貴方の歌を聞いて、先づ思いましたが……。(後略)

これ等二つの書き表(わ)しの相異を厳格に使い分けるのは、戦前教育の人々にとっては、日頃古文歌詞に接しているだけに、かなりの努力がいる様です。この葉書の主も、やはりこの現・旧の使い分けが苦手の様です。戦前の厳しい国語教育で字ばれた表記法を、そう簡単に変えられるものではないのです。ましてや、琵琶人としては、むしろ旧かなの如く発音して演奏しなければならぬのです。

この点に関しては、母も同様で、現・旧の用法を混同したまま文を綴っていました。その為、昭和三十年前後を境として、かな使用をチェックして書き直して編集しました。

この様な字・句の問題に加えて、もう一つ編集に手間取った事柄がありました。それは水藤錦穂活動記録として記述を試みた年譜でありました。

大正・昭和の五十年余りの出演記録、斯界の主な事柄を記述することに依って、一演奏家の活動を通しての琵琶界の歴史保存の一頁の思いで始めた編集整理でしたが、先ず、記録資料の少ないことに直面し当惑しました。我が家に残る演奏会のプログラム、会報、琵琶雑誌などから、演奏会の日時、場所、曲目を記してゆくのですが、長い歳月の為に、

多くの会報や雑誌、プログラムが散逸している、正確な記録作りにはかなりの困難が在る事が判りました。特に、大正後期、昭和中期の記録は、震災と、戦災が禍いとなって、全く判らなくなっています。又、ごく最近の演奏会のことさえ、やはり判らない事があります。

その一例を挙げるとこうです。母が常時出演していた筑前琵琶「紅会」の公演にいくつかの不明な点がありました。或る年の公演時が判らなかつたり、他の年の曲目が不明だったりするのです。先ず、プログラムを調べてみましたが、何回かのプログラムが散逸してしまっていますが、次ぎに錦・会報をあたりましたがやはり不明です。そこで、紅会同人の教師に演奏会場で面会した折、プログラムの照会を乞いました。が、直ぐには判らないので：と云うご返事でした。大体、自分の主催した会とか、出演した会とかのプログラムは、整理保存しなくてはと思いつら、実はなかなか出来ないのです。母もそれをする事なく他界しました。そして、私自身も整理することないまま近年に至ってしまいました。紅会の教師がそうであっても、当り前の事であり

そこで、紅会代表同人である押田旭翁師に書を送って教示を願いました。幸いにも、三日を経ずして詳しいご教示をいただくことが出来ました。察するに押田師はプログラムの整理保存に意を配っていられるようで、主催

者として当然のことだと云ってしまえばそれまで乍ら、やはり字ぶべき、尊い配慮だと思いました。この様なご助力が、大いに役立ち、編集は少しづつ進んでゆきました。(この項づく)

### 巻田旭玄氏受賞



巻田旭玄氏は多年に亘り琵琶を通じて社会に貢献された功績により、十一月二十六日大阪商工会議所に於て、名誉副総裁三笠姫宮殿下御臨席のもとに大阪府知事から「金色有功章」受賞の光栄に浴された。誠に目出度いことで、全琵琶界のためにも喜ぶべきことである。

巻田氏は薩摩・筑前琵琶楽器一式の修理や法服なども調製され、陰に陽に斯界に尽くされている。八十二歳、大阪旭会の重鎮で大阪同好会の会員。ここに京絃紙を通じてお祝を申し上げる。尚同氏の住所は〒532大阪市東淀川区下新庄一丁目七十五。(石橋旭嶺記)



年 新 賀 謹

<p>〒113 都派琵琶本部 家元 都 錦穂会々員一同 錦穂</p>	<p>〒535 大阪前中央部旭会 日本旭会所属 塩谷旭洲</p>	<p>〒606 筑前琵琶橋会 法香久院 荒木旭媛</p>	<p>〒420 静岡市丸山町八七 武田恒水</p>
------------------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------

<p>〒060-91 札幌市中央区南六条西七丁目 電話〇一一(五一二)七二五二番 広川岳楓 岳城流薩摩琵琶</p>	<p>〒618 大阪府三島郡島本町桜井四ノ一 電話〇七五(九六一)五〇四三番 秋元旭晨 桜井旭会会長</p>
-----------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

<p>詩 " " " " 女流 " " " " 女流 吟 楊滝高田木村山瓜吉川田生反楊 部 沢原中宮上下生田上川島町 浦藤 一 光花柳珠梅湧博瞳秋琵琶蘭華紫嶽 蓮光司郎 同 子水水水水水水水水水水水水水水</p>	<p>〒662 三浦蓮水方 事務所 電話〇七五(九九七)八八七番 一水会神戸支部 詩琵琶 蓮水会</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------

年 新 賀 謹

<p>〒150 普絃会々員一同 日本芸術琵琶 東京都渋谷区恵比寿南三十七ノ六 青木早水方 電話(七一三)一七七七番</p>	<p>〒606 馬場鴨水 錦心流琵琶 京都市左京区下鴨夢倉町一六 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p>	<p>〒120 松本蒨水 一水会城東支部相談役 東京都足立区青井二ノ十四ノ二六 電話〇三(八四〇)三八九二番</p>	<p>〒658 田中敷水 錦心流琵琶一水会 琵琶を染しむ会 神戸市東灘区御影中町一ノ一四 電話〇七八(八五一)二六三番</p>
---------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------

<p>〒171 藤卷旭鴻 筑前琵琶 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番</p>	<p>〒189 師範若宮旭登 旭登会員一同 東京都東村山市美任町一ノ四 久米川公団九ノ二〇四 電話〇四二二三(九一)九三二一番</p>
---------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

<p>賛助会員 福高島 楊橋 弥正 生 水桜岸木荒牧山安矢梅植田楊戸戸西林林馬 内井本下木 岡住吹原村中 田倉川田 場 媿旭港皇旭南旭旭旭冥歛嶽旭旭磯旭旭鴨 水富水水媛水清康津濤水水水公嶺水城蒨水</p>	<p>會長 平井春嶺 〒603 京都市北区平野宮西町六四 電話〇七五(四六二)一四二二三番</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

# 謹賀新年

<p>申込先 電話大阪〇六(七九二)一四八四番 九三三五番</p> <p>琵琶・詩吟・劍舞・奇術・日舞 民謡・芸能奉仕慰問無料 大阪琵琶同好会</p> <p>石橋旭嶺 外会員一同</p>	<p>〒790 松山市立花三丁目五ノ六 電話〇八九九(四一)三八七番</p> <p>日本琵琶楽協会参与 愛媛琵琶連盟顧問</p> <p>佐藤晃絃</p>	<p>〒671-20 姫路市花田町高木二八ノ四 電話〇七九二(二三)七一九五番</p> <p>大阪中央部旭会</p> <p>北中旭蝶</p>	<p>〒830 久留米市国分町一五三四 電話〇九四二(二二)八八五八番</p> <p>薩摩琵琶</p> <p>天嶺島津正</p>
<p>〒194-01 東京都町田市金井町二六一ノ三 電話〇四二七(三四)一一八八番</p> <p>翠琵琶宗家</p> <p>竹下翠風</p>	<p>〒156 東京都世田谷区八幡山二ノ一 電話〇三(三二九)三五五〇番</p> <p>家元大館美江子</p> <p>洲楓会本部</p>		
<p>〒160 東京都新宿区三栄町十六 電話〇三(三五五)三四五九番 三八三〇番</p> <p>筑前琵琶紅会</p> <p>押田旭窈</p>	<p>筑前琵琶日本旭会</p> <p>範司</p>		

# 謹賀新年

<p>〒160 東京都新宿区新宿一ノ十四一 地下鉄御苑駅前隣洲鳳会館 電話(三五二)七三六六番</p> <p>大館派琵琶教室 詩吟天溪流宗家</p> <p>洲鳳会々長山田洲鳳</p>	<p>〒164 東京都中野区本町三ノ二ノ二 新都ハイツ二〇五 電話〇三(三七五)一八四七番</p> <p>薩摩琵琶</p> <p>仲川秀邦 (旭明)</p>	<p>〒031 八戸市内丸八七五番 電話〇一七八(二二)八七五番</p> <p>正派薩摩琵琶 正調詩吟指南</p> <p>徳洲最上十太郎</p>	<p>〒011 秋田市土崎港中央四丁目九ノ六 電話〇一八八(四六)三三四番</p> <p>錦心流一水会秋田支部長</p> <p>星野巖水</p>
<p>〒580 松原市柴垣一ノ一九ノ二七 中山鳳水方 電話〇七二三(三二)一一九〇番</p> <p>錦心流琵琶</p> <p>一水会大阪支部 会員一同</p>	<p>〒606 京都市左京区下鴨蓼倉町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p> <p>錦心流琵琶</p> <p>一水会京都支部 会員一同</p>		
<p>〒569 高槻市宮田町一ノ六ノ五 電話〇七二六(九三)三一五九番</p> <p>大和流琵琶吟家元</p> <p>山崎光椽</p>	<p>筑前琵琶橋会宗範</p> <p>山崎旭萃</p>		

# 謹 賀 新 年

〒141

東京都品川区西五反田四ノ八ノ一  
電話〇三(四九一)八三三二番

前田秋聲

琵琶芸術協会代表  
四絃富士会顧問  
錦心流琵琶秋声会々長

〒454

名古屋市中川区中島新町  
中川住宅五ノ四〇一号  
電話〇五二(三五三)〇二八四番

琵琶芸術協会  
秋声会名古屋本部  
秋声会 阿部秋子

〒604

京都市中京区西ノ京西鹿垣町一  
電話〇七五(八四一)二九八九番

京都琵琶協会  
秋声会京都支部  
琵琶芸術協会  
秋声会 牧秋静

〒465

名古屋市中東区高間町三三八一  
電話〇五二〇七〇二二〇九三番

秋声会 山本秋香  
秋声会名古屋城東支部

〒467

名古屋市中瑞穂区中根町三ノ二七  
電話〇五二〇八三三六七一七番

秋声会 長谷川秋楓  
秋声会名古屋城南支部

〒464

名古屋市中種区鏡月町二ノ三三  
電話〇五二〇七五二九三三二番

秋声会名古屋中央支部  
顧問 山田秋蜂  
秋声会 松浦秋翠

# 謹 賀 新 年

〒534

浜松市安松町三三ノ四  
電話〇五三四(六一)三五五四番

柿沢篁峰

流薩摩琵琶

〒237

横須賀市船越町一ノ五〇  
電話(六一)三六七六番

山田幻水

横須賀琵琶連盟会長

〒359

所沢市中新井二ノ二八ノ四  
電話〇四二九(四三三)〇九二八番

岡部錦蝶

薩摩琵琶錦水会  
正絃会・四明会 会員

〒520

大津市中央一丁目一番十号  
電話〇七七五(二四)五〇六五番

戸倉旭嶺

〒536

大阪市城東区蒲生一ノ六ノ二  
電話〇六(九三三)〇八〇八番

天津旭八千代

筑前琵琶旭会  
浪速旭会長

〒603

京都市北区平野宮西町六四  
電話〇七五(四六一)一四二三番

平井春嶺

京都琵琶協会  
日本琵琶楽協会  
同 関西支部

〒651

神戸市中央区上筒井五ノ四ノ二  
電話〇七八(二二二)一六一番

上原まゆり  
(旭艶)

柴田旭堂

筑前琵琶旭堂会  
旭会総師範

# 謹 賀 新 年


<p>〒042 本館市湯川町三十一番五 電話部(五九)二四五三番 函部(五九)二四五三番 電話市大手町一六ノ一六番 電話市(二三)四一五六番</p> <p>高橋 蘇水</p>	<p>〒336 浦和市別所四丁目一ノ一五 電話〇四八八(六一)八〇一九番</p> <p>花俣 圭水</p> <p>錦心流琵琶一水会本部副会長 同 埼玉支部顧問</p>
<p>〒810 福岡市中央区春吉二ノ八ノ二 電話〇九二(七六一)〇三二〇番</p> <p>嶺 旭蝶 青山 旭子</p> <p>筑前琵琶嶺派</p>	<p>〒211 川崎市中原区丸子通一六六〇 シャルルム新丸子六〇三号</p> <p>押川 旭葉</p> <p>筑前琵琶橋会</p>
<p>〒420 静岡市西草深町二十一番二十号 電話〇五四二(五三)一四七一番</p> <p>赤心流鶴翁</p> <p>吟詠 赤心流 琵琶 赤心流 家元</p> <p>〒544 大阪市生野区小路二乙二六二五番 電話〇六(七五三)〇三二五番</p> <p>高千穂 旭楓</p>	

# 謹 賀 新 年

<p>〒670 姫路市田寺池の内八四二ノ八 電話〇七九二(九六)三八四四番</p> <p>大師範 西川 旭操 法萩山 外門人一同</p> <p>筑前琵琶 日本旭会理事 関西連合会副会長 宗家副参司</p>	<p>〒617 京都市向日市鶏冠井町山端二 電話〇七五(九二)四五二番専用</p> <p>梅原 旭濤</p> <p>筑前琵琶旭会</p>
<p>〒570 守口市緑町十七土居団地十一号 電話〇六(九九二)五六二五番</p> <p>会主 小川 吟水 小金 西寄 甫水 梶 寄 靖水 北 村 萌水 増 田 玄水 関 川 剛水 大阪・吟水会</p>	<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇 電話〇七五(六九一)〇二二八番</p> <p>篠原 旭洋 一坊寺 旭清 西村 旭富 桜井 旭富 田中 旭水 矢吹 旭美津 会长 三美会</p>
<p>〒537 大阪市東成区神路三ノ八ノ十八 電話〇六(九八)二二九一四番</p> <p>相談役 榊 本旭風</p> <p>筑前琵琶日本旭会</p>	

**新作 蒙古来**

小野鶴彦 作詞



詩吟  
筑海の颯気天に運って黒し  
海を覆って来る者は何の賊ぞ  
蒙古来たる北より来たる

東西次第に吞食を期す  
蒙古の世祖忽必烈は 太祖成吉思汗の遺志  
を継ぎ 四百余州を平げて 宋の天下を奪  
い取り その余威をかけて我が國の 海辺  
各地を侵略し しかのみならず使を立て  
貢をなせとぞ云い來たる 時の執権 北條  
相模太郎時宗は 胆さながら雍瓦の如く  
使の者を斬って捨て 六十余州に号令し  
防禦おさおさ怠りなし 忽比烈怒りはげし  
くて さらば日本を攻めつづし 蒙古の領  
土となさんとて 弘安四年秋の頃 筑紫の領  
海に荒浪を 高く逆巻き戦さ船 寄せ來る  
様はさながらに 秋の野山のみみじ葉の  
風に散り敷く如くなり

詩吟  
蒙古来る吾は怖れず  
吾は怖る関東の令山の如きを  
命惜しまぬ久米の子ら いざさらば大和魂  
見せなんと 小舟操りまっしぐら 敵船内

**謹 賀 新 年**

〒602  
京都市上京区堀川通丸太町上ル  
電話〇七五(二二)四〇三三番

中 島 旭 穂  
旭穂会 一同

筑前琵琶日本旭会師範

〒531  
大阪市大淀区长柄西二丁目十二  
電話〇六(三五)四〇八一番

菅 旭 香

大阪旭香会

〒176  
東京都練馬区旭町三十二番  
電話〇三(九三〇)四四九八番

宗家 水 藤 五 朗  
錦琵琶本部 桜 子

十一月四日演奏会  
ライブ録音!!  
〇勸進帳・羽衣 全曲収録  
〇恵林寺炎上 カセットテープ 五〇〇〇円  
お申込みはお葉書にて 錦本部迄

**謹 賀 新 年**

〒176  
東京都練馬区豊玉北五ノ一一  
芸の友社 電話〇三(九九一)〇三六三番

鈴 木 誉 士

〒567  
茨木市新郡山二丁目一ノ一六番  
電話〇七二六(四)二八二一六番

吉 井 良 三

〒608  
京都市北区上御霊上江町二三二  
電話〇七五(四四)〇六〇九番

林 旭 萌

〒369-12  
埼玉県大里郡寄居町大字寄居  
電話〇四八五(八一)一七四〇番

大 井 錦 淀

〒678  
相生市相生二丁目一四ノ一七  
電話〇七九(二二)五二二八番

浜 本 旭 好

筑前琵琶日本旭会

〒653  
神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五  
電話〇七八(六七)〇〇一八番

田 中 旭 昇

〒662  
西宮市松園町十三番二十一号  
電話〇七九八(二二)八二〇八番

楊 光 嶽 子 水

琵琶一水会神戸副支部長  
琵琶蓮水会副会長

〒431-31  
本部 小野鶴彦方 電話〇五三四(三四)〇八七一

主 幸 小 野 鶴 彦  
青 島 鶴 苑  
伊 藤 鶴 苑  
大 石 鶴 苑  
柿 沢 鶴 苑  
染 谷 鶴 苑  
三 上 鶴 苑

薩摩 鶴 絃 会



に躍り込み 右に左になぎ倒す 折しもあ  
れや雷の 耳轟かす大暴風雨 波を逆巻き  
吹く風の 勢助くる鯨波の聲 騒ぎとどろ  
き天地も 動みて返らんばかりなり 攻め  
来し寇の十余万 刃に斃れ海に落ち 罪を  
免がれ還る者 僅か三人とぞ聞こえける  
詩吟  
恨む可し東風一駆  
大濤に付し 瘡血をして尽く  
日本刀に 齧しめざりしを  
恨む可し東風一駆大濤に付し 瘡血をして  
尽く 日本刀に 齧しめざりしを。

(註) 本曲は頼山陽作「蒙古来」の詩を  
もとにして、わかり易く詞とした  
ものである。



柴田旭堂・旭艶(上原まり)

母子放映

十一月二十四日(火)午前八時半毎日テレビ  
奥さま八時半です」の時間帯に、柴田旭堂女  
史母子が九時十五分までの四十分余りにわた  
り、琵琶楽や宝塚のことなどをアナウンサー  
と対談、その間「耳なし芳一」や「大物の浦」  
などの一節を独奏、合奏で演じて琵琶界のた  
め有意義なテレビ放映をされた。



安井神社金比羅宮会館  
「京都琵琶協会秋の  
演奏会感想記」

十一月八日(日)立冬を過ぎたわたんの寒さは  
異常であったが、琵琶をなつかしみ、琵琶の  
音に触れるよるこびに会場は超満員を呈する  
に至った。

舞台はいつものように金屏風、美しい大生  
花、スタンドの明かりに輝き、マイクの声調  
も極めて良好である。  
十二時開演。

最初の門下の若いお二人。日ごろの基礎を  
しっかり習熟されての見事な演奏はまたたの  
もし。

明快な司会者によって演奏は進行す。

各演奏者は自信満々、用意周到、個性ある  
演奏と意欲に燃えて独自の境地が表現され、  
聴衆は傾聴また傾聴、心の琴線に触れ、琵琶  
の美しさに魅せられた。

来賓二氏の演奏を聴く。  
神戸一水会支部、滝沢水さんの「楊貴妃」  
は花やかにして堂々、場内を庄する若さの感  
あり。

大阪一水会支部長・中山鳳水さん「木村重  
成」は崇高にして且つ華麗、錦心流の範を示

して下さった。  
かくて四絃五絃の美しい響と、色とりどりの  
舞台姿で熱演が続けられ、祝電の披露もあり、  
五時すぎ平井会長からまごころのこもつた  
閉会の辞があつて散会となった。  
つづいて記念写真、乾盃、美声の余興続出  
し、賑やかに終了す。(五六、一一、一〇鴨水記)  
(当日の出演者と曲目前号御参照)

吉井良三

一閃為す 初撚の妙に聞く者の  
心捕えて 終るを知らず  
尾をひきし 余韻は三味や琴に無く  
其の旋律に 心奪わる

橘会琵琶第二回少壮演奏家競演会

十一月三日(休)昼一時京都東山安井金比羅宮  
会館、主催筑前琵琶日本橋会。那須与市一左  
々木祥子▽羅生門一山山旭星▽大楠公一坊  
寺旭清▽筑後川一菅旭輝▽曲垣平九郎一内藤  
旭波▽大徳寺一中村旭光▽大徳寺一奥村旭翠  
▽大徳寺一島田旭紅▽栗津ケ原一堀川旭鵬▽  
栗津ケ原一箕浦旭声▽(以下賛助出演) 西郷

隆盛一名古屋西村旭一声▽都落一広島板谷旭  
邑。  
第二回水藤五朗琵琶演奏会  
十一月四日(休)夕六時半東京日本橋第一証券  
ホール、本年度文化庁芸術祭参加(有料)▽  
勸進帳(掛合、問答入)一山下晴楓、岩崎  
竜風、田中光水、森中志水、絃水藤五朗、鼓、  
笛入▽恵林寺炎上一水藤五朗・尺八入▽羽衣  
一水藤五朗、木原綾子、水藤桜子、藤巻旭彰、  
琴、尺八、鼓入。

日本芸術琵琶協会例会

十一月十五日(日)昼一時東京文京区大塚の京  
屋貸席。紅葉狩一金尾丘水▽五条橋一内田隆  
章▽異国の丘一杉山富士代▽衣川一丸田まさ  
子▽石童丸一鈴木好水▽詩吟二題一奈佐喜泉  
▽山科の別れ一坂入俊風▽姫百合の塔一伊与  
田詩水▽詩吟二題一田中吟翠▽竜の口一金森  
旭弾▽彰義隊一青木早水▽渡し守甚兵衛一長  
谷川錦舟▽司会一杉山蛸雪、山崎錦幽。来賓  
雨宮忠先生。欠席杉山旗水、若宮旭登兩氏。  
議題①忘年会を十二月二十日京屋で開催、②  
来年から公開演奏会を随時開催して琵琶楽発  
展に資す。以上協議小宴の後六時散会。

邦楽琵琶まつり木原綾子演奏会

十一月二十三日(休)昼十一時東京日本橋東京  
証券会館ホール、後援日本琵琶協会はか、  
(伴奏尺八磯牧山、琴水藤雅楽万里)。母常

盤一長岡初江▽菅公一木村栄子▽源実朝一成  
田徳芳▽一寸法師一斉藤満喜▽絃文彰▽五条  
橋一田島道子▽白虎隊一油料綾香▽城山一斉  
藤満喜▽頼朝の娘一平田由実▽時雨曾我一鷲  
見仁子▽信長公一會主木原綾子▽噫吟詠人生  
我が命一吟斉藤満保、琵琶同満喜▽康頼悲願  
一榎俊水▽湖水乗切一清川嵐舟▽輝尼と正宗  
一山下旭瑞▽竜の口一田中光水▽扇の的一會  
主木原綾子▽良寛詩壇一木原綾子社中。立方  
入▽紅葉狩一松崎洲陵▽戦艦大和一荒井姿水  
▽盛綱先陣一會主木原綾子▽姿三四郎一佐藤  
采水▽羅生門一藤内旭寿美、石井旭良、三上  
旭風。絃押田旭野▽敦盛一田中之雄▽栗津の  
霧一山崎旭幸▽武蔵野一遠藤鶴東▽衣川一藤  
巻旭鴻▽羽衣一木原綾子、水藤五朗、琴水藤  
雅楽万里、小絃藤巻旭彰、立方松賀社中。外  
に吟詠詩舞十八題。

国際障害者年チャリティシヨウ

十一月二十八日(出)昼一時横須賀市文化会館、  
主催横須賀邦楽友会、後援市教育委員会ほか。  
榎田門時愛一末吉希水▽明烏お吉一石井桑水  
。舞踊二耳なし芳一。石井桑水。絃都錦穂。  
外に舞踊、箏曲等。(有料)

日本琵琶悠絃会月例会

十一月二十九日(日)昼一時東京中野区大和田  
地域センター。門琵琶合奏一山崎錦幽、八束  
一崎▽大石王税一伴旭友▽異国の丘一杉山富  
士代▽本能寺一錦幽▽迷語もどき一太富士岳

鮮▽山科の別れ一坂入晴峰▽彰義隊一清水源  
城▽濤陽江(上)一金尾秀水▽同(下)一峰▽鉢の  
木一軽部岳端。以上研修演奏を終り小宴の後  
六時散会。本日の来賓喜多村一城氏。

京都琵琶協会月例会・忘年会

十二月六日(日)二時会員楊嶽水氏宅。平井  
春嶺、水内煖水、桜井旭雷、岸本港水、山岡  
旭清、矢吹旭美津、安住旭康、梅原旭濤、楊  
嶽水、田中敷水、西川磯水、林旭朋、馬場鴨  
水、植村真水、高橋正雄、福島弥生各氏並び  
に来賓三浦蓮水女史列席。舟井慶一田中▽村  
上喜剣一西川▽天野屋利兵衛一岸本▽茨木一  
植村▽寂光院一平井の五氏研修演奏のあと新  
年宴会の件や義士祭献奏の件その他を協議し、  
夕刻から楊御夫妻心尽くしの饗宴で席を移し  
て忘年会に入り且つ飲み且つ食いの無礼講の  
楽しい一刻を過ごし、来年の活躍を契い合  
って七時半散会した。

筑前琵琶演奏会

十一月二十八日(出)午前十時一午後五時姫路  
市民広場、主催西川旭操会。旭会名誉会長故  
松岡旭岡師一周忌法要の演奏会で式典に統一  
て旭操女史を始め関西各地旭会員の外九州、  
北陸等の遠隔地からも出演者を迎え全十八曲  
(内立方付八曲)を展開して故師を偲んだ。

水藤五朗氏入洛歓迎会

十二月十一日(日)午後四時本部平井会長宅。  
主催京都琵琶協会有志。(次号詳報)